

この案内は日本に居住する日本国籍の方で、18 歳以上が対象です。

出発前の準備

お送りする案内についてのご注意

一旦ご案内した後も、入国・検疫・検査関連の情報、タイムテーブルやレッスンの構成など、さまざまなものが現地の事情にあわせて変更される場合がございますので、何卒、ご了承くださいませよう、お願い申し上げます。

入学許可書 (Letter of Acceptance) や、受け入れ内容の書かれた書類について

記載された個人情報や申し込み内容に間違いがないか、必ず確認してください。万一、お送りした書類に、間違いがございましたら、お手数ですが、すぐに EAS までお知らせいただきますようお願いいたします。例えば、

- パスポートと入学許可書などの学校の書類の名前や誕生日にも間違いがあると、
- ・情報に相違がありますと渡航先の入国でトラブルが発生する可能性があります。
- ・学校での本人確認にも支障をきたす恐れがあります。
- ・性別に間違いがございましたと、寮の受け入れが不可となる場合があります。

万一学校の書類に間違いがございましたら、すぐに EAS にお知らせください。

「学校からの案内」には必ず目を通してください

まずは学校側が用意した出発前の案内をお読みください。書類には学校名やロゴが入っており、「留学準備資料」「出発前ガイド」「渡航ガイドブック」「出国前オリエンテーション」等の題となっています。学校ごとに、持ち物リストや、フィリピン入国について、空港出迎えに関すること、現地にて学校に支払う費用、その他にもアドバイスが含まれますので、必ずお読みいただき、旅行の準備を進めてください。

EAS の「出発前の準備」(この案内)

「これからすることリスト」「持ち物リスト」「タクシーアプリ」「お金の準備」等について、書かれておりますので、必ずお読みください。「持ち物リスト」は、たくさん載せてありますので、ぜひご活用いただけたらと思います。「お金の準備」は、いろいろな意見がありますが、主に学校からの案内を参考にさせていただき、この案内は学校からの案内の補足としてお読みいただければと思います。

書類は手荷物で持参を

※お渡しする書類はすべて、必ず手荷物でお持ちください(スーツケースに入れないでください)。

(例：出発前オリエンテーション資料、出入国関連情報、入学許可書、宿泊関連情報、空港出迎え関連など)

スーツケースは入国審査の時にはありませんので、必要な書類が取り出せない場合があります。またスーツケースは、紛失する場合がありますので、大切な書類や貴重品をいれてはいけません。

現地にて登校初日に直接学校にお支払いいただく費用について(「現地支払い費用」と呼びます)

フィリピン留学では、ほぼ全ての学校で「現地支払い費用」があります。一部の学校では入学金などに含めて(合算して)いるようです。内訳はフィリピン政府に関するものと、学校・寮に関するものに分けられます。

フィリピンの政府認可の語学留学では、フィリピン入国管理局から SSP を取得できる SSP 認定校である必要があります。

フィリピン政府に関するもの

正規の語学学校では、SSP (特別就学許可証) や SSP I-Card (SSP 付随 外国人登録証)、ACR I-Card (外国人登録証、TVV)、ビザ延長費用などが必要です。

(2026 年 4 月時点) アクティブ語学研修 2 週間では、SSP と、SSP I-Card が対象になります。

学校・寮の関するもの

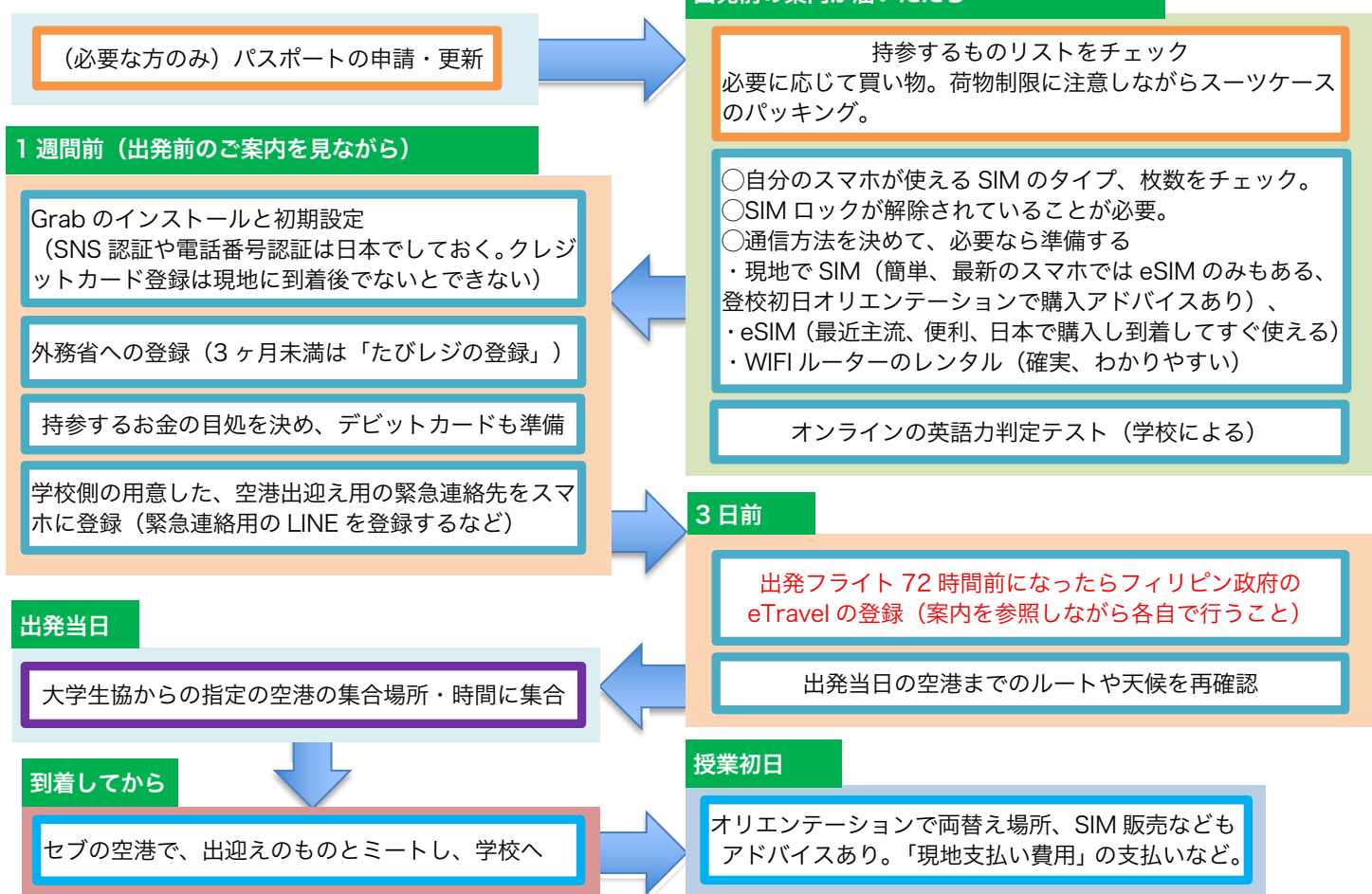
生活面では寮のデポジットや施設維持管理費、水・光熱費、電気代・エアコン代などが含まれます。エアコン代とは電気使用量が規定量を超過した場合に限り、超過分の料金を決められた算出方法に基づき計算し徴収するものです。また学校により、ID カード代などを含みます。到着時の空港出迎え費用、教材費につきましては、研修費用に含む場合と、現地支払いに含む場合があります。さらに教材費は、案内費用に含まれず、現地に於て、別途、レベル判定後に費用が決まる場合もございます。

現地払い費用の変動

これらはフィリピン政府の方針変更や物価変動の影響を受けて、やむなく、値上げをせざるを得ない場合がございます。フィリピン政府に関するものは、短い猶予期間にて施行される場合があり、政府により決められた発効日より施行されます。また学校と寮に関する費用は、物価変動が著しく大きいと判断された場合に限り、改定される場合がございます。通常、実施までに 1-2 ヶ月程度の猶予期間を設けますが、改訂時期が出発前となる場合もございます。お申し込み時に案内された費用が、現地に到着した際には、少し変わっていたという可能性もありえますので、どうかご了承いただきますよう、お願い申し上げます。

(セブの場合)

出発までのおおまかな流れ



パスポートについて

■パスポートの残存有効期間について

フィリピン入国時に「滞在期間+6 ヶ月以上」が必要です。

案内ごとに、少しずつ異なる場合がありますが、以下に統一いたします。

パスポートの残存有効期間に関する、複数の情報を整理して、出発前に混乱しないようにしましょう！

案内のもと	案内内容	推奨するかどうか	どれがよいか
(1)さまざまなサイト、語学学校の案内	「フィリピン滞在期間+6 ヶ月以上」	推奨します。	 これを採用します。
(2) さまざまなサイト、語学学校の案内など	「フィリピン到着時+6 ヶ月以上」	実績が多い。	
(3)フィリピン当局のウェブサイト	日本のパスポートは、「+6 ヶ月」免除の国に含まれており、滞在期間のみで渡航可能	EASでは推奨していませんので、避けてください。	

(2)にて案内している学校も多々あり、フィリピン到着後、就学許可証や外国人登録等の手続きを行なっている実績がございます。しかし、**アクティブ英語研修では、より確実な(1)を基準とし、採用しております。くれぐれも遵守いただきますよう、お願いいたします。**

(3)は、日本出発時の空港で、航空会社の判断で、搭乗手続きの際に航空会社の認識・判断により、パスポートの残存有効期間が6 か月に満たないため搭乗拒否に遭うケースがあります。またフィリピン到着時の入国審査官の判断により、パスポートの残存有効期間が6 か月未満のため入国拒否に遭うケースもあるようです。このようなリスクを負わないために、**必ず (1) で、パスポートをご用意ください。**

パソコンなど

(ノートパソコン、またはタブレット)

	<u>ノートパソコン、またはタブレット（持参が必須でない場合）</u> 2 週間ほどの短期であれば、持参されない方も多いと思いますが、4 週間以上ともなると、英語に関する調べ物や宿題に活用したりできますので、持参をお勧めします。イヤホンは必ず持参しましょう。可能なら、マウスもあるとよいでしょう。英語学習に使える動画や映画鑑賞、休日にネットサーフィンをしたり、また授業ではプレゼンテーションを使って発表をすることもあるので、その準備などにも使えます。部屋でネットが繋がらない・繋がりにくい場合は、スマホ経由でネットに接続をトライしてみるとよいでしょう。 外付けキーボード付きのタブレットをお持ちの方は、それでもよいです。
	<u>ノートパソコン・タブレットの持参が必須の学校</u> 必ずご持参ください。（必要な学校では、学校の作成した渡航前ガイドブック等にも、その旨が書かれているはずです）。イヤホンは必ず持参してください。できれば、マウスも持参してください。ノートブックの代わりにタブレットを持参される場合、外付けキーボードも持参しましょう。

することリスト

早めにとりかかる（デビットカード/クレジットカード）	
	デビットカードの持参（フィリピンを含む海外で、ATM から現金が引き出せるカード） フィリピンでは、クレジットカードが使えない場所も多く（ほとんどの語学学校ではクレジットカードは使えません）、万一、現金が足りなくなった場合の対策として、現地の ATM から現金を引き出せるデビットカードをお持ちの方（作成が間に合う方）はぜひご用意ください。早めに確認・手続きをしましょう。 デビットカードもクレジットカードと同様に、世界中で広く使えるビザカード系、マスターカード系にしてください。以下のリストにあるような銀行に口座をお持ちの場合、早めの発行が可能な場合があります。 ■ビザカード系は VISA デビットと呼ばれていたりします。PLUS（プラス）の系列です。 例：ソニー銀行 Sony Bank WALLET、ゆうちょ銀行・りそな銀行・三井住友カード・PayPay 銀行・楽天銀行などの各 VISA デビットカードなど（2025 年 3 月時点） ■マスターカード系は Mastercard、Maestro（マエストロ）、Cirrus（シーラス）などの系列です。 例：キャッシュパスポート、JAL Global WALLET カード、楽天銀行・住信 SBI ネット銀行・GMO あおぞらネット銀行・三井住友カードなどの各 Mastercard デビットカードなど（2025 年 3 月時点） ※ 日本の銀行のキャッシュカードには、PLUS や Cirrus に対応しているものもあるようですが、使い方がわからない、現地でうまくいかなかった、引き出せなかった、といった事例を聞くことがあります。ですので、できれば上記に挙げたような、通常のデビットカードをご用意ください。デビットカードの予備として、もしくはデビットカードの手配が間に合わない方は、対応した銀行のキャッシュカードをご持参いただくのがよいでしょう。 ※ クレジットカードのキャッシングサービスは、お金を借りるサービスです（利息がかかります）ので、普段はデビットカードで現金を引き出す方がよいと思います。デビットカードがない方は、キャッシングサービスを活用されるとよいでしょう。
	クレジットカードの持参 ビザかマスターのカードをご用意ください。JCB は海外で使えるお店が少ないため、ビザかマスターにしてください。また複数枚、あると、一層安心です。「異なる会社のビザとマスターを 1 枚ずつ」や「異なる会社のビザカードを 2 枚」などでもよいです。例えばフィリピン到着後、タクシーアプリ「Grab」にクレジットカードを登録する際、なぜかうまく登録できず、別のカードにしたら登録できた、というような話がたまに聞かれます。
	クレジットカード 月々の利用限度額の引き上げ 学生用カードやご子息用の家族カードでは月々の利用限度額が 10 万円程度と低めに設定されていることがあります。これだと緊急時に困ることがあるため、一時的に、旅行中の限度額を、一般カード程度（30 万円や 50 万円程度）に引き上げておいてください。保護者に頼んで、手続きをしてもらうのがよいでしょう。 （一般的な方法） ○カードに記載の電話番号に電話して、希望を伝えます。 ○ご本人が電話した場合は、カード会社から保護者に、内容を確認するための連絡が入ります。
	暗証番号の再確認（実店舗でも、タッチ決済でない場合は、利用時に暗証番号が必要となりますので、必ず、確認しておきましょう。）
	クレジットカードの本人認証コードの送付先 ネットで利用時に、認証コードが送られますが、その送り先を電話番号（SMS）にしている方は、ローミングでないといけませんので、認証コードの送り先を旅行中はメールアドレス宛てにしておいた方がよいでしょう。

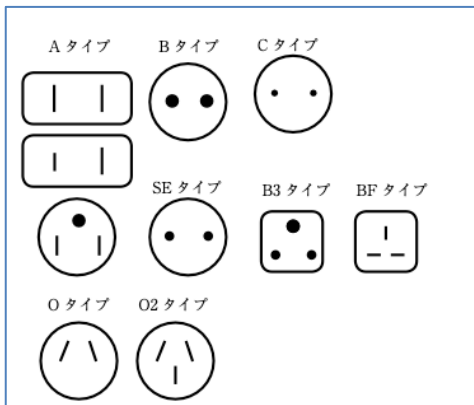
スマホのチェック

早めにとりかかる（スマホ）

	ご自分のスマホの SIM ロックが解除されているか確認し、ロックされている場合は、解除しましょう。
	現地で、万一のスマホの紛失に備えて、データをバックアップしておきましょう！！
	海外ローミングが使えるか確認（使うかどうかは別として、必ず使えるようにしておきましょう）
	どのタイプの SIM が使えるか、eSIM 限定か、等を調べておきましょう。WIFI ルーターをレンタルの方は不要です。

電気製品

（電源）

プラグ	セブやバギオでは、ほとんどが日本と同じ A タイプであり、語学学校でも、ほとんどが A タイプのため、変換プラグは不要のままでいたい済みます。一部、B3 や C タイプが残っていることもありえますので、万一のことを考え、それを持参されるのもよいですが、使う機会は想像し難いです。 <table border="1"> <tr> <td>日本</td><td>A タイプ</td></tr> <tr> <td>フィリピン</td><td>主に A タイプ。他に B3 タイプ、C タイプもある。</td></tr> </table> 	日本	A タイプ	フィリピン	主に A タイプ。他に B3 タイプ、C タイプもある。
日本	A タイプ				
フィリピン	主に A タイプ。他に B3 タイプ、C タイプもある。				
電圧	入力電圧が 100-240V 対応となっていれば、通常、変圧器は不要です。日本専用（100V）のものは、使えませんので、変圧器が必要です。現地でも電源や USB 給電が複数必要となることがありますから、海外対応の多機能の電源やコードのある海外対応タップがあると便利です。 <table border="1"> <tr> <td>日本：100V 東日本 50Hz/西日本 60Hz</td><td>フィリピン：220V 60Hz</td></tr> </table>	日本：100V 東日本 50Hz/西日本 60Hz	フィリピン：220V 60Hz		
日本：100V 東日本 50Hz/西日本 60Hz	フィリピン：220V 60Hz				
海外対応のコード付きタップ	ネット等で海外対応のタップ（延長コードのある電源タップ）を購入できます。コンセントがたくさん必要な方には便利です。プラグ形状が日本式だとアダプターが別途必要です。対応の消費電力が高いものを選びましょう。日本国内では 1500W 前後のものが多いようですので、それくらいのもものを選ぶとよいと思います。さらに USB-A や USB-C ポートが付いているものだと便利です。				
海外対応の多機能電源	主要な国のプラグアダプターがついていて、本体を電源に直挿しますので、コード部分がなく持ち歩きに便利です。このタイプは本体がずんぐりして、狭い場所ではプラグをさすスペースがないことがあります。タップのみ、またはタップと両方揃えるのがよいでしょう。				
寮にヘアドライヤーがあるかどうか	学校の用意している「渡航前の読む資料」（渡航前ガイド、渡航前資料、留学準備 等の名前の冊子）に、備え付けがあると書かれていたり、その中の持ち物リスト（持参品リスト）にヘアドライヤーが不要と書かれている場合は、寮に備え付けのものがありません。それ以外は、ご自分でご用意をお願いします。				
ヘアドライヤーやヘアアイロンを用意する場合	持参する場合、制限が厳しくなりましたので、ご注意ください。 ヘアドライヤーのように、消費電力が大きいものは、100-240V 対応となっていなくても、海外での使用に問題が出たり、故障することがあります。そこで、次のいずれかを検討ください。 ○機内持ち込み・預け入れ荷物の制限にあうものを購入する ○日本で使っているものを持参したい場合は、メーカーサイトなどで海外対応について調べる ○現地で購入する（ヘアドライヤーが 700 ベソ程度、2024 年）				

(フィリピンの税関)	外務省海外安全情報	http://www.anzen.mofa.go.jp/m/mbtop.html ・外務省海外安全ホームページ： https://www.anzen.mofa.go.jp/
	(「フィリピン」から抜粋) 3 通関 (1) 持込禁制品および規制品 ア 持込み禁制品 麻薬等違法薬物類、銃砲刀剣類（部品や材料を含む）、爆発物（部品や材料を含む）、わいせつ物（雑誌、ビデオ、写真等）、賭博用品類、象牙または象牙製品、商標権や著作権等を侵害する物品等 イ 持込み規制品 動物、肉類、果実および植物、海・水産物、薬品類、トランシーバー等 (2) 税関検査等 ア 税関検査 税関申告は正確に行ってください。実際に開披検査が行われることは多くありませんが、フィリピンの関税法では外国人の荷物は税関検査官の判断により課税対象となるか否かが決められ、一旦検査を受けると、高価そうなものは全てレシートの提示を求められ、提示できなければフィリピンの関税定率に基づいて税金が徴収されます。 特に下記のような物品は、没収されたり課税されたりする可能性がありますので注意してください。 (ア) 違法性が疑われる物品や多額の現金 (イ) 滞在日数に見合わないほど大量な医薬品や化粧品等 (ウ) 制限を超えた量の酒類、たばこ (エ) 高価に見える腕時計、貴金属類 (オ) スマートフォンやパソコン等の電子機器類（複数個保有や未使用品の場合） イ 関税納付 持ち込もうとする品物が課税対象であると判断された場合は、定められた関税をフィリピンペソ現金で支払う、または、当該品物を必ず第三国に持ち帰ることを前提として、保証金（Cash Bond）をフィリピンペソ現金で支払う（フィリピン出国時に返金されます）、これらいずれかの方法により、当該品物を没収されることなく、フィリピン国内に持込むことができます。 なお、課税額は、持ち込もうとする品物の元々の金額に応じて定められていますので、係官に商品のレシートを提示する必要があり、仮にレシートを提示できない場合には、税関係官により課税額が決定されます。販売目的と見なされるもの（新品の通信機器、電化製品、化粧品等の大量持込み等）は、すべて課税の対象となることがありますので注意してください。 (3) 外貨の持込み・持出し 出入国に際し、1 万米ドル相当額以上の外貨（現金、小切手、有価証券等および貴金属類を含む）を持ち込む、または持ち出す際には、申告する必要があります（申告せずに持ち込み、摘発・押収される例も発生しています。また、現地通貨（ペソ）は、5 万ペソ以上の持出し・持込みが禁止されています。 多額の外貨等を持ち込む場合には、あらかじめ日本の税関当局に対して「支払手段等の携帯輸出・輸入申告書」を申告するとともに、フィリピン到着時の「税関申告書（CUSTOMS DECLARATION）」の該当箇所にチェックを入れ、税関当局から「外貨等持込申告書（Foreign Currency and Other Foreign Exchange-Denominated Bearer Monetary Instruments Declaration Form）」を入手して記入・提出してください。 詳細につきましては、各税関当局に直接お問い合わせください。	

食品の持ち込みで、よくある注意事項

持込制限に、肉類があります。例えば、カップ麺やインスタント食品に肉が入っていないように見えても、成分表示に肉エキスが入っているとすれば入国時の税関で没収される可能性があります。

持参する場合は、成分表示を確かめた上で、用意されるのがよいです。

菓子類も成分によって不可となる場合がありますが、封を開けていなければ、不問にされたりする事例があるようです。また、成分が問題なくとも、菓子類や食品を大量に持ち込もうとすると、商売目的と勘違いされ持ち込み不可となる場合があります。そのような時は、正直に、個人で消費するため、と答えましょう。

たばこ、電子タバコ、アルコールの所持、持ち込みについては、各自で最新情報をお調べください。特に電子たばこは方式によって取り扱いに違いがありましたが、最新情報はご自分でお調べいただきますよう、お願いします。

(薬の持参について)

外国に薬を持ち込むときには違法薬物や営業目的と間違われまいように注意が必要です。解熱剤、胃腸薬、整腸剤、下痢止め、総合感冒薬、頭痛薬、鼻炎の薬、痛み止め等は、普段服用している市販薬を持参することになるでしょう。その際、入国時に誤解を招かないよう、販売時のパッケージのまま持参しましょう。箱や付属説明書などもそのまま持参しましょう。

病院で処方される薬は、念の為、その処方箋を持参しましょう（できれば、担当医に英語で処方箋を書いてもらいましょう）。薬局で海外に行くことを伝えれば、役立つ書類をもらえるかもしれません。また薬局では薬の説明書が付属してきますので、それも持参し、なるべく薬局で受け取った状態で（他の入れ物に入れ替えたりせず）、さらにお薬手帳やその他の明細などもセットにして持参し、あらぬ誤解を受けぬよう、注意することが大切です。ただし、英文でないと、海外では、わかってもらえない可能性がありますので、空港で審査官や職員に問われた際には、自分でも説明できるようにしていきましょう。

厚生労働省



厚生労働省 海外渡航先への医薬品の携帯による持ち込み・持ち出しの手続きについて

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/iyakuhin/yakubuturananyou/index_00005.html

(予防接種について)

フィリピンでは、義務になっているものではありません。（参考情報；外務省、厚労省）

外務省

<https://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/medi/asia/phili.html>



厚生労働省

<https://www.forth.go.jp/destinations/country/philippines.html>



接種するかどうかに関わらず、必ず、しっかりとした海外旅行保険に加入し、万一に備えていただくことが大切です。弊社では海外旅行保険の加入は必須としておりますので、必ず、ご加入ください。

持っていくもの

学校からの案内に記載された「持ち物」を先に読み、その後でこの補足をご覧ください。飛行機への液体、スプレー（種類による）の持ち込みには制限がありますので、ご注意ください（各自で、ご自分のフライトの制限をお調べください）。

（学校関連）

□学校からの書類

全て機内持ち込み荷物（リュックとか）に入れて持参しましょう。

□入学許可書

フィリピンの入国審査時に、入学許可書の提示を求められる場合があります。メールでお送りしたものをスマホで提示することもできますが、事前にお渡しした印刷版を取り出す方がスムーズだと思いますので、求められたら、すぐに取り出せるよう、機内持ち込み荷物に入れてお持ちください。求められなければ入学許可書を提示せずともよいです。特に 30 日を超える方は、求められていない場合、見せる必要はありません。

□空港出迎え用の緊急連絡先を持参すること

学校の渡航前ガイドや出迎え手配書に載っています。必要な時に、すぐに取り出せるようにしておいてください。また緊急連絡先に LINE を使っている学校の場合、必ず日本出発前に登録しておいてください。

□証明写真

一般的に海外旅行ではパスポートサイズの証明写真を数枚持参することを勧められたりしますが、それとは異なり、学校では、さまざまな申請や ID カード等が必要となります。学校の渡航前ガイドに持参するよう書かれている場合は、それに従ってご用意ください。

（勉強に必要）

□筆記用具・ノート

日本のものは品質がよいため、予備も含めて持参を。マーカーも忘れずに。

□電子辞書（既に持っている方）と予備の電池

スマホで単語検索は不便という声あり。あると便利です。お持ちの方は、持参しましょう。

□英文法の本

読みたいくなります！あいまいな部分、忘れた部分の再確認。

（あると安心）

□ふりかけ、海苔、お茶漬け

食事でお米が出たら、使います。

□おかゆ、インスタント味噌汁

日本食が恋しくなった時に。

□緑茶パック、ドリップコーヒーなど

□カップヌードルなど（食べ物の好き嫌いが多い方が自分）

□ミネラルウォーター 1L くらいあると

スーツケースに余裕のある方のみ。学校にはウォーターサーバーがいたるところにありますので、不要かもしれませんが、到着した時間が夜だったりすると、施設がよくわからないので、喉が渴いた時に安心です。部屋の洗面所の水道水は飲まないようにしてください。

（生活家電）

□ヘアアイロン

必要な方は原則として持参。現地で購入も可。

ヘアドライヤー、ヘアアイロン、携帯湯沸かしポッドのような消費電力が高いものは、240V まで対応していても、故障する可能性があり、危険なこともあります。日本から持参する場合は、その製品のメーカーに海外利用は問題ないか確認してください。サイトで公表していることもありますし、直接、問い合わせてもよいでしょう。わからない場合は、このさい、将来の海外旅行でも役立つように、旅行用のものをご購入いただくのもよいでしょう。

□ヘアドライヤー

必要な方は原則として持参。現地で購入も可。一部の学校では寮にあります。通常ある場合は「学校からの案内（出発前ガイド、渡航前ガイド など）」に何らかの形で書かれています。それに関係なく、ご自分用のものを使いたい方、複数人部屋で自分専用のものがほしい方は、ご持参ください。

持って行ってよかったとの声 (続き)

(旅行の必需品)

- ☐ 体温計 (脇にはさむタイプ)

念のため、日本から検査キットと一緒に持参されると、ご自分ですぐに調べられてよいです。

- ☐ パスポートのコピー

パスポート紛失時にこれがあると助かることもある。店頭でクレジットカードを使う時に、パスポートの提示を求められることもあるので、そんな時にもコピーを持ち歩いていると助かる。

- ☐ スーツケースの吊り下げ式の秤

荷物のパッキング時に重さをチェックするため

- ☐ 折りたたみ傘

- ☐ 目覚まし時計

スマホで細かくセットするのが面倒の方

- ☐ 財布・小銭入れ (小銭入れが別にあると便利)

旅行用のチェーンのついたものが安心です。コイン入れを別に用意するのもよいです。

- ☐ クレジットカード

ビザかマスターを含み、複数枚あるとよい

- ☐ デビットカード

現地の ATM から、現金が引き出せるものを。

- ☐ E チケット (控え)

帰国便も載っているもの。求められたら、提示してください。スマホで提示してもよいですし、印刷したものでもよいです。

- ☐ eTravel

フィリピン入国の 3 日前から申請が可能です。登録が完了したら、QR コードの画面をダウンロードします。搭乗時やフィリピン入国時に求められた場合、スマホで提示できるように準備しておいてください。

- ☐ リュック 大きいのと、小さいのがあったと便利

(体調管理)

- ☐ 解熱剤 (カロナールやロキソニン)

新型コロナ対策としてのみでなく。

- ☐ 胃腸薬、整腸剤、下痢止め

お腹の調子が悪い時の薬。

- ☐ 総合感冒薬、頭痛薬、鼻炎の薬、痛み止めなど

普段日本でも使う薬。海外では体調を崩しやすい。

- ☐ 額にはる熱冷ましシート

(必携 または、あると便利 - 生活編)

- ☐ マスク

念のため、日本から持参しましょう。多めにあるとよいでしょう。

- ☐ S 字フック (少しサイズの大きい、プラスチックタイプ)

机にバッグを掛けたり、何かと便利。

- ☐ ジップロックを複数枚

食べかけのお菓子を取っておくのに、とてもありがたい。その他にも何かと有用。

- ☐ 水筒・タンブラー

ウォーターサーバーから水を汲む用として。外出用も考えるなら、しっかりとした保冷機能のある水筒もあるとよいでしょう。常温で長く放置はしないように。

- ☐ カップ (コップ)

歯磨きの時のうがい用、ウォーターサーバーからの水で歯磨きをするのに、これがないとやりにくい。紙コップの束を持っていてもよいが、旅行用に小さくなるがそれなりの容量のカップもある。

- ☐ ティッシュ (箱ごと)

スーツケースに入れば。便利です。

- ☐ 手かがみ (相部屋の方)

朝、洗面所が混んでいるときは

- ☐ 耳せん、アイマスク (相部屋の方)

相部屋に慣れていない方は。いびき対策も含めて。

- ☐ ハンガー

寮にないか、あっても少ないことが多いのでスーツケースに入るなら、いくつか持って行くといよい。現地で購入も可。

- ☐ 洗濯バサミ (個室なら、洗濯紐もありかも)

- ☐ 洗濯ネット

- ☐ 日焼け止め

日差しが強いのでセブでは強く推奨。バギオでもあった方がよい。液体の場合は機内持ち込み制限に注意。現地でも買える。

- ☐ 消臭スプレー (汗をかくので-セブ) (トイレで使うもよし)

- ☐ かゆみ止め、虫刺されの薬

- ☐ 虫除け (蚊)

- ☐ アリコロリ (置き型)、コンバット

スプレータイプの殺虫剤は、航空機の持ち込み制限にかかると思われますが、現地で購入が可能です。

- ☐ ガムテープ (何かの補修に。くつが破れたときにも。)

持って行ってよかったとの声 (続き)

(ノートパソコン)

□デジタル技術を活用した授業を取り入れている学校では、授業でもノートパソコンを使うため、ノートパソコンの持参が必須となっています。必要な学校は、パンフレットや出発前にお送りする案内に書かれておりますので、案内をよく読んで、忘れないようにしてください。

タブレットで代用可能としているところが多いですが、その場合は、外付けキーボードも持参しましょう。スマホで代用は無理とお考えください。1ヶ月を超える長期の方は、学校の指定の有無に関わらず、持参された方がよいでしょう。

□パソコン持参の学校では、イヤホンも持参してください。(使わないケースもありますが、念の為お持ちください)

(スマホ関連)

□スマホ用のモバイルバッテリー

週末に遠出をするときなど、夕方からスマホが使えないと、本当に困ります。

最近の発火事故により、飛行機への持ち込み制限が厳しくなっていますので、各自で利用便の条件を確認し、規定を厳守ください。

□スマホやパソコン用のイヤホン

□スマホの防水ケース

海のアクティビティにいくつもりなら。

□スマホのSIM交換用のピン (eSIMの方は不要)

SIM購入店で入れ替えてもらえばよいが、帰国時にSIMを元に戻すのは自分ですることになるため、あるとよい。スマホ購入時に付属のもの。ペーパークリップ (細いもの) やシャーペンで可能な場合もある。

(必携 または、あると便利 - ガジェット編)

□USB充電器 (USBポートが複数あるもの)

(海外対応のもの)

USB-AポートやUSB-Cポートが複数ある充電器は大変便利です。相部屋では特に必需品との声。

□多機能コンセント (海外対応のもの)

複数の電源差し込み口がある多機能コンセントです。コンセントに直差しできるコンパクトなものが多いようです。専用のUSB充電器ほどではないですが、USB充電ポートも数個あったりします。

USBポートがそれで足りる方は、よい選択です。充電するものが多い方は、専用のUSB充電器もあると心強いです。

□電源タップ (電源の延長コード) (海外対応のもの)

USB充電器や多機能コンセントがあれば、足りるのですが、コンセントの場所によっては、USB充電器や多機能コンセントを差し込むスペースがない、机や棚の一部があたって、USB充電器や多機能コンセントが差し込めない、ということがあります。そんな時には、あると安心です。(使わないかもしれませんが、念の為、という感じでしょうか)

持って行ってよかったとの声 (続き)

(衣類や身につけるもの・タオル関係)

□着替えは多めがよい

少なくとも1週間分あるとよい。汗をかきやすいため、着替えが少ないと洗濯の回数が増えて面倒。

□長袖・長ズボン、カーディガン、フリース、パーカー、ジャージは薄いもの。

セブは一年中泳げる暑い所ですから、基本的にはTシャツでよいが、寮のエアコンがきついと感じるかもしれないので、その場合の対策に長袖・長ズボン、薄いフリースやパーカー、ジャージ、ウィンドブレーカー等があってもよい。有名ショッピングモールのようなエアコンが効いている場所に長くいく時は薄手の羽織るものがあるといい。外出時の日差し対策、蚊や虫対策にもよいとはいうが、外出時に長袖は暑くて着ていられないので、基本的に日焼け止めや虫除けで対応するのが現実的。

□ジャケット (バギオ)

バギオはセブとは異なり、涼しいため注意が必要。半袖もあればよいが、春や秋が一年続くようなイメージで、朝晩は涼しい。昼はTシャツやポロシャツでよいが、夜はトレーナーやフリース、パーカー、ジャージ等は必要でしょう。スニーカーと靴下も忘れずに。

□サンダル

一つあると、機内、学内、部屋内で助かります。現地が必要に応じて購入でもよい。セブだと滞在中はサンダルばかりの人もいますが、街中は道が悪いので、暑くともスニーカーが安心。そのため、靴下もある程度、持参を。

□帽子やサングラスなど日差し対策 (特にセブ)

日差しが強いので。帽子はあった方がよい。

□水着

泳ぎたい人、または念の為。

□バスタオル

普通2-3枚はあった方がよい。1枚は用意されているところもあるが、それでも自分で1枚は持っていく。

□フェイスタオル (3-4枚あると、何かと助かる)

□ハンドタオル (多めに)

□タオルケット (スーツケースに入るなら)

薄いものでよい。海外の掛け布団はうすいシーツのようなものが多いから。スーツケースに入らないかもしれないので、無理に持って行くこともないが。

(トイレ関係)

フィリピンに限らずアジアや、ヨーロッパの一部の国々では、トイレにトイレットペーパーが設置されていなかったり、トイレットペーパーを便器に流さず横に設置してあるゴミ箱に捨てるようになっていたり (流すと詰まるため)、手洗い用の水道が出なかったりします。ウォシュレットもないのが普通です。ですので、外出時は以下のようなものを用意します。

□ポケットティッシュ

多めに。現地のスーパーでも売っているが、初めからないと困るので、持って行くこと。

□トイレットペーパー (ロールごと)

各自で用意します。学校により、ウェルカムセットに1ロール含まれていたり、日本から1つ持参するように案内されていたりします。2ロール目からは現地で購入。1ロールもらえる場合も、日本から1つ持参されるとよいです。中の芯を抜いて、つぶすとスーツケースの場所をとりません。現地でお出かけの際は、外出先にトイレペーパーがあるとは限らないため、つぶしたロールをバッグにいれておいたりします。

□ウェットティッシュ (ノンアルコール)

携帯タイプ。あれば、何かと役に立つかもしれない。現地では見ないので、ほしい人は日本から持参を。

□アルコール消毒液 (またはジェル、ハンドジェル)、ウェットティッシュ (アルコール)、携帯サニタイザー

携帯タイプ。外出時に必須。何かと便利。トレイで手洗いの代わりに。100円ショップ等で多めに購入するとよい。携帯サニタイザーは現地のスーパーなど売られている。

□アルコール除菌シート、便座掃除シート

使う方は日本から持参を。

□携帯ウォシュレット

必要な方は日本から持参を。

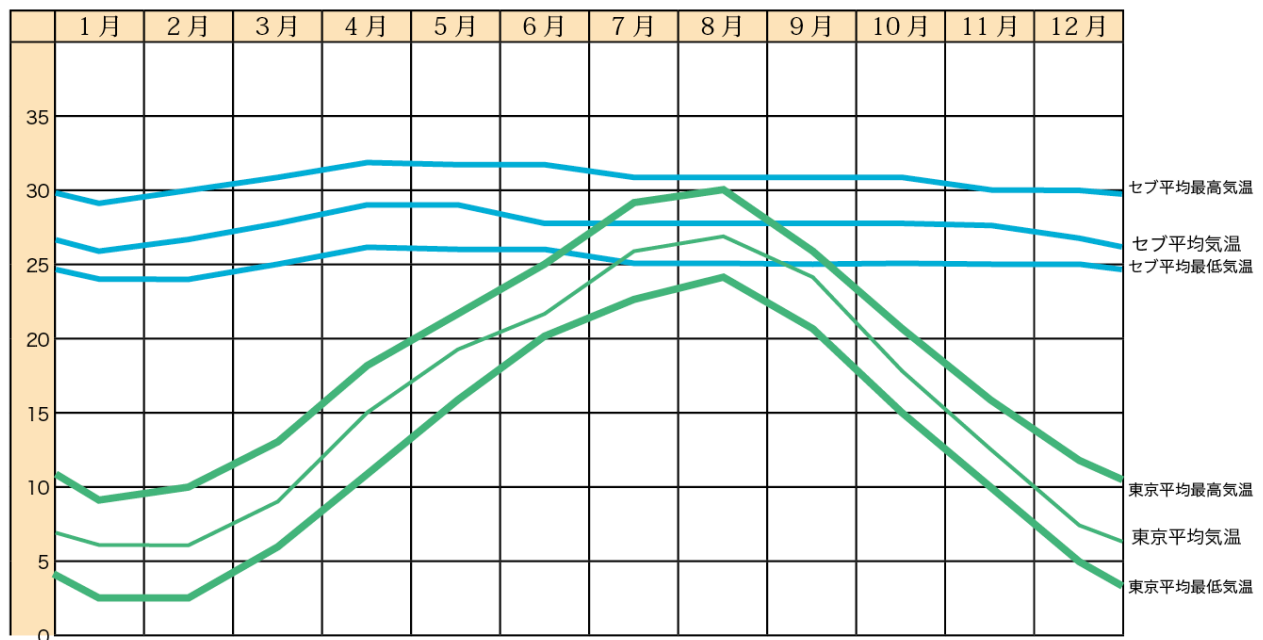
気温について

「フィリピンは熱帯性気候で年間を通じて暖かく、雨季（6月～11月）と乾季（12月～5月）に分かれており、3月～5月は最も暑く、12月～2月は最も過ごしやすい時期です。雨季でも日本の梅雨のように降り続くことはなく、2時間ほどの降雨です。」（厚労省 FORTH より抜粋）

雨季には雨が増えますが、一日中降り続くことは珍しく、数時間で止むのが普通です。セブは平均最高気温が一年を通して30度前後、平均最低気温が24度程度と、日本とは異なり、一年の温度変化が少なく、暖かい。

セブと東京

大まかな気温の比較



○セブは、東京の7-8月が、ほぼ年間続くようなイメージです。部屋にはエアコンがあります。

○外着として長袖のものは不要で、Tシャツやポロシャツのような半袖がよいです。ただし、昼間、学内ではエアコンがきいているので、薄手の羽織るものがあるとよいと思います。外出時は日差しがきつい日もあります。強い日差し対策として、長袖を着るのはつらいと思いますので、外出時は日焼け止めを使うとよいでしょう。

時差

日本	24	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23
フィリピン	23	24	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22

現地で水道水は飲まないでください

学校内ではウォーターサーバーが、何ヶ所も用意されています。水が欲しい時は、水道水ではなく、必ずそこから飲んでください。歯磨きもウォーターサーバーの水でしてください。外出時も保冷機能のある軽めの水筒を持参し、ウォーターサーバーから補充して出かけるとよいです。カップや保冷機能のない水筒に飲みかけの水が長時間経過したものは飲まないようにしましょう。また水筒がなくとも、街中にはコンビニや、スーパーがあり、安くミネラルウォーターを購入することもできます。

自分は大丈夫と思っていても、水道水や生水を飲むと、お腹を壊して数日寝込むこともあり、授業が受けられなくなります。また診断の結果、食中毒となりますと感染症の一つの可能性もあり、場合によっては入院を指示されることもあります。また、帰国日に発熱がある方は、飛行機の搭乗を拒否される場合もございます。

搭乗を拒否されますと、航空券の変更または取り直し、現地滞在の延長などが必要となります。海外旅行保険が使えるかどうかは、ケースによりますので、その都度、アクティブ英語研修の保険の連絡先にご相談いただくことになります。

ガイドブックやネットでは、「自分は大丈夫」のようなコメントをみることがあるかもしれませんが、水道水や生水は絶対に飲まないでください。

■世界で水道水が飲める国

世界で水道水が飲める国は、2025年時点で9カ国とされる説が主流のようです。日本・ニュージーランド・アイスランド・フィンランド・ノルウェー・スウェーデン・デンマーク・オランダ・オーストリアの9カ国。出典やデータの時期によっては12カ国など諸説がありますが、いずれにしても多くはありません。この9カ国説では、アジアでは日本のみ、他には北欧の国が多いようです。そのほかに「そのまま飲めるが注意が必要」とされているのが、西ヨーロッパや北米の33カ国ほどとされています。世界的には、多くの国で「水道水は飲めない」となっています。

※外務省「海外安全情報」や国土交通省「日本の水資源の現状、第7章 水資源に関する国際的な取組」の令和7年データを元にしてしています。

「自分は胃が強いから」とあまり気にされない方もおられますが、過信せず「水道水が飲めない国」ではミネラルウォーターを飲むようにしてください。「そのまま飲めるが注意が必要」と「飲めない国」を一緒にしないようにしましょう。アジアでは日本以外は、「飲めない国」と考えましょう。

■飲む以外は？

水が口に入らないようにすることが大切です。歯磨きは、ミネラルウォーターを使います。

手を洗う時や洗顔の際は、通常、水道水を使う方もよくいます（水が口に入らないようにして）。

洗った手で口を触らない、手を洗った直後にお菓子を摘んで食べないようにする、ということを自分で考えて行動しましょう。外出時、トイレの後や、他にも手を洗いたいこともあるでしょう。例えば、きれいなショッピングモール以外では、トイレに水道がない、あっても水の出が悪い（または配管が壊れていて出ない）、といったこともあります。そういった場合に備えて、外出時はアルコールジェル（スプレー）を持ち歩きいてください。

Grab（アプリ）をインストールしておく

■必須アプリ：タクシー配車アプリ「Grab」を出発前にインストールと認証をしておきましょう

○タクシー配車アプリはいくつかありますが、Grab は東南アジアの主要都市で広く使え、フィリピンでも広く使われているため、Grab を準備しましょう（セブ、マニラ、バギオでも使用可能）。Uber のようなサービスです。Grab アプリ内には、フードデリバリー、配達集荷などさまざまなサービスがありますが、ここでは配車サービスの話です。最近では Grab Car と表示されているようです。日本語表示では「車」と表示されていたりします。普通のタクシーを呼ぶ Grab Taxi や相乗りの Grab share などの表示があっても、それではありません。Grab Car を使います。

○Grab カーは、アプリで行き先を指定し、自分のいる場所もアプリで確定し、車が見つかったら、車の種類と運賃が一つ、または複数、表示されます。そこから選びます。運転手に行き先の説明がほとんど不要ですし、事前に運賃が表示するので安心です。渋滞時でもメーターは関係ないため、気が楽です。さらにアプリで支払い方法にクレジットカードやデビットカードを登録しておけば、降車時の支払いもありません（これを設定していないと、その場で支払いとなります）。このアプリは、なくてはならないものとして、必ずインストール・設定をしておいてください。通常、電話番号で SNS 認証をするため、日本でインストールから認証までをしておきましょう。ただし、クレジットカードの登録はフィリピン到着後でないとできない仕様のようです。

Grab Car では、車が見つかったら、通常、4-seater（4 人乗り）、または 6-seater（6 人乗り、大きめの車でバンだったりする）が表示されます。1-2 人なら 4 人乗りでもよいと思います。3 人だと 6 人乗りが全員後ろに座れるので、お勧めだと思います。

○タワンの渋滞時は Grab カーで配車依頼を出しても、車が見つかるのに時間がかかることがあります。車が見つからない、と表示されたら、再度トライしましょう。郊外だと 3 回、5 回と何度も繰り返すこともあります。

○混雑する場所から車を呼ぶとミートに手間取ることもあります。そんな時は、流しのタクシーをつかまえる方が早いかもしれませんが、慣れないうちは、できるだけ Grab を使ってください。通常のタクシーを使う際は、ぼったくられることがないように、ドライバーがメーターを動かしているか注意してください。セブでは Grab がよいですが、バギオでは、慣れてきたら、流しのタクシーを使っている方も普通にいますので、それもよいと思います。

○料金については、セブでは、普通のタクシーより、Grab カーの方が安いことが多いようです。バギオでは Grab が若干高いことが多いようですが、渋滞でメーターが上がる心配や、支払いの手間がないことを考えると、少なくとも慣れないうちは Grab がお勧めです。

○ミートはだいたいスムーズに行くと思います。アプリ上で到着まで「あと 2 分」「近くにいる」などと表示が出ます。到着したら、アプリに出ている車の特徴（車の色とナンバー）で見つけましょう。アプリにはマップ表示もあり、車の来るルートが表示されます。そのため、車がどちらの方向から来るか、わかります。

○渋滞でミート場所まで遅れそうになったり、ミートに手間取っていると、アプリ上でメッセージを送ってくるドライバーもいます。自分からメッセージを送ることもできます。入り口が複数ある大きなショッピングモール等で、近くにいるのに見つからない、という時などはアプリの通話機能を使うこともあります。

○降車時は、振り返る癖をつけましょう。カバンを置き忘れていないか、スマホや財布を落としていないか、必ず、一度、振り返って確認してください。無くしたものは見つかる可能性はほぼありません。

○路上でスマホを操作するときは、ひったくられることがないように、必ず周囲に注意してください。

Grab の登録手順（日本で可能）

- (1) 電話番号を登録（日本の電話番号で登録する場合、日本の国番号+81 のあと、市外局番の最初の 0 を除いて続ける）
Facebook アカウント、Google アカウント、スマホの電話番号のいずれかで登録します。
 - (2) 電話番号での SMS 認証あり（SMS に認証番号が届き、それをアプリに登録する）
 - (3) 現地にてクレジットカードを登録（アプリの「Payment」から登録する）
- ※アプリの「位置情報の利用を許可」をオンにしないと、正しく動作しません。

Grab へのクレジットカードの登録はフィリピンに着いてから

- 現在、カードの登録は日本ではできず、現地到着後に行います。ネットが使える状態で、登録してください（WIFI があるところ、またはフィリピン用の SIM/eSIM に変更した後）。
- カードの登録がエラーになることがあります。そのような場合、ネットが使えるか再確認する、別のカードを試してみる、アプリを一旦削除し再インストールしてトライする、などしてみてください。
- カードは Visa、Master の他、JCB も使えるようです。
- 現地でアプリを再インストールする際、電話番号で SMS（ショートメッセージ）が使える必要がありますので、日本の SIM に設定し、ローミングをオンにして、設定するのがよいでしょう。

最近のセブの乗り物

■Grab (タクシーアプリ、配車アプリ)

基本的に車での移動は、Grab を使いましょう。Grab アプリには食べ物の配達など、さまざまなものがあり、その中の Grab カーが、これにあたります。歩いて 20 分ほどの距離でもつつい、乗ってしまいます。Grab カーは日本に比べると十分に安いと思います。ジブニーは一段と安くまりますが、特に数週間の短期滞在の方にはハードルが高いので、Grab カーがよいです。通常の流しのタクシーはさげましょう。

■タクシー (白色で、屋根にタクシーの表示がある)

Grab が捕まらない時や、慣れた方の中には Grab が少し高く感じるルートでは、流しのタクシーを使う方もいるようですが、観光都市でもあるセブでは意図してか、意図せずかわかりませんが、ボッタクリとなることがありえます。旅行者と思われると話しかけられたりして、気の弱い方だと怖いと感じるかもしれません。ですので基本的には Grab を使いましょう。

■ジブニー

郊外までカバーしていて、費用も安いので、地元の方にとってはなくてはならないものです。前はトラックのような形状で荷台にあたる部分を対面式のベンチシートに改造したようなバスです。屋根はありますが、吹き抜けで窓ガラスはありません。車両は古いですが、派手な装飾が目立つものもあります。運賃表や時刻表、ルートマップが用意されておらず、旅行者にとっては乗り降りの方法もよくわからない、地元の独特な文化を感じるユニークな乗り物です。留学生にとっては、ルートがわからないでしょうし、どの場所で乗って、どこでバスを止めるか、運賃と払い方など、わからないことばかりです。



一応乗り場はありますが、道端で手を挙げて止めて、ドライバーに行き先や料金を聞いている人もいます。留学生の場合、ドライバーに行き先や運賃を尋ねても、ドライバーが英語が苦手な場合、ビザヤ語 (セブのあるビザヤ地方の言語) が必要になってきます。ドライバーに頼れないので、ある程度、推測や他の乗客に尋ねて乗ることになります。乗ってからドライバーに尋ねてもよいと思いますが、伝わらない場合は、他の乗客に尋ねるしかありません。それでルートと運賃がわかれば何とかなるでしょう (「〇から〇まで」と場所を伝えて運賃を尋ねます)。運賃がわからない時は「〇から〇まで」と言って 13 ペソ払い、足りない分を催促されたら、追加で支払うという手もあります (初乗り 13 ペソで、距離によります)。降りる際は、目的地で屋根をたたき (コイン等でたたくとよい)、車が止まったら、後ろからさっと降ります。運賃は乗車したら、すぐに払っておきます。ドライバーから離れて座っている場合は、前の乗客をリレーしてドライバーまでお金を渡してもらいます。それをチェックする人もおらず、なんともおおらかで、フィリピンらしい、ゆるさがよいと思いますが、留学生の皆さんには、分かりづらいと思います。支払いは、おつりがでないよう、小銭をしっかりと用意します (現金支払いのみ)。混雑している時は、旅行者だとわかると財布やスマホをさらわれることもあると聞きます。ポケットにさすだけだと、気がついたら失くしているかもしれませんので注意しましょう。スマホでルートを調べるのに夢中になっていると荷物への注意が散漫になりやすいですし、スマホはしっかり持っていないと、道路に落とすかもしれません。

上記のようなことを考えると、短期の方は慣れる間もないでしょうから、ジブニーは避けて、Grab カーを利用してください。そもそも、横断歩道を渡る時は、信号がないところが多く、車が走っているなかを、地元の方は上手に渡りますので、その辺りの感覚がないと、ジブニーは乗り降りも難しいと思います。長期滞在の方は、現地で数ヶ月暮らしていく中で、文化や習慣に慣れてきて、安全にできる方のみ、このタイプのジブニーにトライされてもよいと思います。

■モダンジブニー（ニュージブニー、BEEP、Beep bus）

フィリピンでは公共交通車両近代化プログラム（PUVMP）を進めており、地域にもよりますが、ジブニーもモダンジブニーというバス（ミニバス）に置き換わってきています。新型車両のBEEPとは、BUS+JEEPを足した言葉だそうでモダンジブニーに属するそうです。古いジブニーは現金支払いのみですが、新しい車両には、クレジットカードのタッチ決済や、交通系カード支払い、QRコード支払いのようなものを徐々に導入しているようです。しかし、必ず、それらが使える車両かどうかは、乗ってみたいとわかりませんので、ニュージブニー/モダンジブニーでも現金（小銭）を用意しましょう。ジブニーのような特徴はなく普通のバスです。学内で先生や他の生徒から、ルートなど情報を集めてチャレンジするのであれば、短期の方でもハードルは低いと思います。自信がない方は、無理せず、Grabカーを利用してください。

■民間のバス

何種類があります。時刻表やルートマップはあるようですが、やはり、地元の人でないと難しいようです。費用は安くとも、迷子になりかねません。ジブニー同様に、長期滞在の方が徐々に慣れるのはよいですが、短期滞在の方はGrabカーを活用いただくようお願いします。

市内にある、大きなバスターミナルだと係員がいます（「ITパーク Transport Terminal」「アヤラ Public Utility Vehicle Terminal」など）。試しに乗ってみるなら、初めは市内ITパークのバスターミナルで、係員に尋ねながら、学校に帰るバスを探して利用してみると、よいでしょう。

他にもセブ・サウスバスターミナル、ノースバスターミナル等が大きめのバス停としては知られています。よく聞くバスとしては、以下のようなものがあります。

People's Jeep

小型の路線バスです。普通のバス（ミニバス）なので、ジブニーに比べると快適で、ニュージブニー/モダンジブニーのようです。

My bus

SM シティモール、SM シーサイドモール、空港を結ぶバスです。30-50 ペソとバスの中では少し高めですが、設備がよいです。

セレスライナー

主にサウスバスターミナルからでていて、オスロブ（4-5 時間）などの観光地まで行く長距離バスです。ノースバスターミナルから出ているものもあります。

など

■バイクタクシー（ハバル-ハバル）

街の繁華街は渋滞が多く、バイクタクシーが車の間をすり抜けるように走るため、現地の方はよく使っていますが、慣れない留学生には危険です。安全面の不安がありますので、利用は避けてください。

■トライシクル（3 輪のバイク、サイドカーのような形状もあり）

安全面でも不安があり、ドライバーと英語でのコミュニケーションが難しいことも多く、お金の支払いもややこしくなりますので、利用は避けてください。

SIM、eSIM、WIFI ルーター、ローミング

eSIM を購入しておく、またはフィリピンで SIM を購入する



これまで、よくある方法は

現地に、安い SIM を購入し、自分のスマホでそれを使います。

最近増えてきた eSIM とは？

eSIM はプロファイル（設定ファイル）をダウンロードし、いくつか設定を施すことで、電子的な SIM に切り替えるというものです。以下のような点がメリットです。

- ・出発前に購入しておく到着してすぐに使える
- ・物理的な形がないので、SIM スロットの入れ替え作業が不要
- ・最近のスマホでは eSIM しか使えないものがある

不安な点は、この手の設定が苦手な方には、現地で SIM を購入する方が無難かもしれません。

自分のスマホを知っておく

渡航先の SIM を使うには、スマホが SIM フリー（SIM ロックが解除された状態）でないと使えませんので、出発前に確認し、ロックがかかっていたら解除しておきましょう。

eSIM も、スマホが対応していないと使えません。eSIM しか対応していないスマホでは、日本で購入しておくのがよいでしょう（設定が苦手な方にとっては日本語の案内やサポートが期待できる。また現地に到着してすぐに使える。）

レンタル WIFI ルーターはどうか？

2 週間ほどならレンタル WIFI ルーターでもよいでしょう。メリット・デメリットは以下を参照。

- ・使い方がわかりやすい
- ・日本でプランを選ぶのがわかりやすい
- ・持ち歩きが面倒
- ・失くす恐れがある
- ・パソコンとスマホで同時にアクセスできる
- ・4 週間を超えてくると SIM がよい。

アンドロイド系のスマホ

SIM フリーであっても、周波数帯によって使えないことがあります*。そのような場合は、現地で安いスマホを購入するのも一つの方法です。ショッピングモールの携帯ショップで購入できます。

* 国ごとに電波の周波数帯が異なり、iPhone は多くの国の周波数帯に対応していますが、アンドロイドはメーカーによりまちまちです。そのため、SIM フリーであっても、周波数帯が対応していないということがありえます。

■SIM カードを購入するだけでは、通話できません

SIM カードの入替手順

(1) 【SIM カード購入】150 円程度。SMART、GLOBE の 2 大通信会社だとカバーエリアが広い。

(2) 【プランを選んで、ロード（チャージ）】SIM カード用のプリペイドのプランがいくつかあり、購入してロード（チャージ）します。「〇ギガで△週間」のようにいくつかの種類があります（数百円から数千円）。初回は、ショップで SIM カード購入時にチャージも一緒にしてもらいましょう。なくなったら追加購入します。

SIM の購入時には住所（学校の住所）など、さまざまな情報の入力が必要となります。わからない時は、学校の案内に方法が書かれている場合もありますので、それを見るか、学校のスタッフに尋ねてください。先に来ているルームメイトに尋ねてみるのもよいでしょう。

■必ず、万に備えて、ローミングが使えるようにしておいてください

一般に格安 SIM はデータ専用のため、電話回線での電話ができません。WIFI や SIM が使えない時に、予備としてローミングで電話がつかえとなると、安心です。

出発前に（出発の 72 時間前をすぎたら）、eTravel の登録をすること

フィリピン渡航には、出発前に「eTRAVEL」(<https://etravel.gov.ph/>) の登録が必要です。出発の 72 時間前より登録可となります。登録をしていない方は、フィリピン行きの飛行機に乗れないか、フィリピンで入国できませんので、必ず登録してください。全て完了すると画面に QR コードが表示されます。それをスマホにスクショで保存しておき、空港のチェックイン時やフィリピン入国時に、求められた場合に提示してください。スマホで自分のアカウントにログインして QR コード入りの完了ページを呼び出すこともできますが、到着したばかりでネットが使えなかったり、うまく呼び出せない、といったこともありえますので、必ず、QR コードの入った完了画面をスクショや PDF の画像としてスマホに保存しておいてください。また、到着時にスマホが使えるよう、バッテリーには注意しましょう。なお eTravel の入力にはオンライン税関申告も一緒になっており、入力項目が多いので、出発の 72 時間前を過ぎたところで、早めに取り掛かってください。

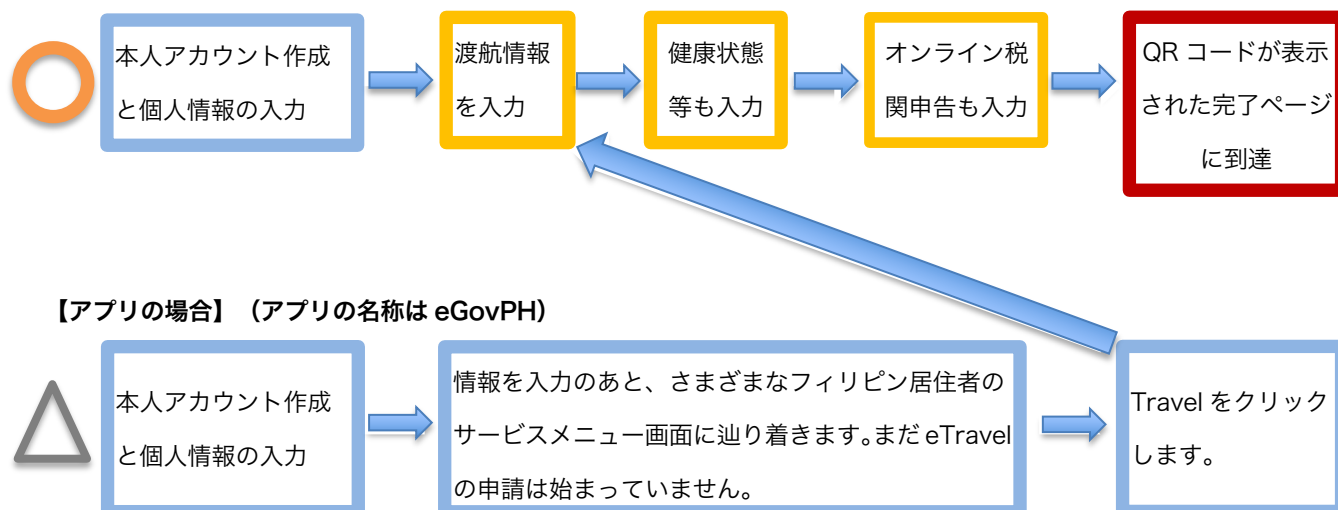
ほとんどの学校で、eTravel の入力例を用意してくれています。お送りした書類にありますので、案内を見ながら、進めてください。画面の順番やデザインなどが、多少変更されている場合がありますが、臨機応変に対応してください。ない場合は、ネットで検索して調べるのもよいですし、EAS にお問い合わせいただいてもよいです。



■eTravel の 2 つの登録方法について

【スマホからブラウザを使って申請の場合】（←アプリではなく、ブラウザで進めていただくのがお勧めです）

PC ではなく、スマホからブラウザ（グーグル クローム等）で作業し、完了ページをそのままスマホに保存いただくのが、わかりやすく、よいと思います。学校からの案内も、ほとんどがスマホでブラウザを使うことを想定したものです。



このアプリは、フィリピンに住む方々向けのさまざまな行政サービスのポータルになっており、eTravel 専用ではありません。途中で、わからなくなる方もおられるようですので、【スマホからブラウザを使って申請の場合】をお勧めします。

入力でわからないところがあれば

ネットで調べるのもよいですし、EAS にご質問いただいてもよいです。eTravel にお金はかかりません。もし、支払いを要求された場合、詐欺のサイト、または公式サイトを模倣した代行サイトの可能性がありますので、支払いを行う前にストップし、公式サイトを探して、登録しなおすようにしてください。

空港出迎えの注意事項（日本出発前）

■日本の出発前に、フライトに変更が発生した場合

出発前であっても、航空会社の都合で、稀に、ご利用の便の到着時間が変更になったり、別の便に変更になることがあります。航空会社から、または購入先の旅行代理店から連絡があるかもしれませんので、メールやメッセージには、注意をしておきましょう。フライトの到着情報に変更は、現地側では、わかりませんので、必ず、皆様から変更内容を、出迎え用連絡先にお知らせください。

連絡先	学校の出迎え用の緊急連絡先（LINE などのアプリや電話番号）
-----	---------------------------------

【連絡の際は、次の内容を伝えてください】

・お名前 ・到着日 ・新しい到着便名 ・新しい到着時間

これらの連絡がありませんと、空港出迎えが変更前の便に合わせて行われ、学生が来なかったという扱いになります。その後、別の便で皆様が到着された際には、空港出迎えの再手配が不可能な場合もございますので、そのような場合は、ご自身で、空港のタクシー乗り場から、正規のタクシーをご利用いただくことになります。再手配が可能な場合もございますが、その場合は空港出迎え費用が再度必要となります。

■出発前に、緊急連絡先を登録しておく

多くの学校が、出迎え用の緊急連絡先として LINE またはその他のメッセージアプリを使用しています。出発前に、連絡先を登録しておいてください。（例えば、LINE を使っているところは、事前の案内に QR コードや ID が載っています）

■緊急連絡先への連絡について

乗り換え地で、空港職員や航空会社の職員に新しいフライト情報（到着便情報）を尋ね、それを学校の出迎え用の緊急連絡先に、連絡してください。空港職員から、新しい便を口頭で伝えられた場合は、少し待ってもらって、間違えないために「新しい便名、到着日と到着時間、到着空港」のメモをとってください。緊急連絡先には、メモを見ながら、新しい情報をお伝えください。

フィリピンの語学学校は、緊急連絡先として、LINE 等のアプリを用意しているところが多く、日本人スタッフが出る場合も多いので、あまり心配はいりません。もし日本人以外のスタッフと電話でやりとりすることになった場合は、以下の例を参考にしてください。

●My name is Taro Yamada, I am a student at ○○○○○ Language School. My flight has been changed. New flight number is JL18, and its arrival time is 4 pm on March 7. Please re-arrange airport pick-up for me. Thank you.

●Hello! My name is Hanako Yamada, I am a student at ○○○○○ Language Center. My flight has been delayed for about 6 hours. But my flight number is the same so far. Please check with the airport about the latest arrival time when you go to the airport. Thank you.

緊急連絡の方法を整理しておく

●日本のスマホのみの方 ●現地で SIM を用意するつもりの方	●空港の無料 WIFI を使って、アプリ（LINE や WhatsApp 等）でのメッセージや通話する。 ●上記が無理ならローミングで電話/通信をする
●渡航前に、一般的な SIM/eSIM を事前に用意された方 ●日本で WIFI ルーターをレンタルした方	SIM/eSIM は、多くがデータ通信専用です。WIFI ルーターもデータ通信専用です。電話回線を使った電話はできません。従って、 ●空港の無料 WIFI か、SIM/eSIM、WIFI ルーターにより、アプリ（LINE や WhatsApp 等）でのメッセージや通話をする。 ●上記が無理ならローミングで電話/通信をする
●経由地から緊急連絡先に連絡をする場合	●経由地の空港の無料 WIFI を使って、アプリ（LINE や WhatsApp 等）でメッセージや通話する。 ●上記が無理ならローミングで電話/通信をする
●電話回線での通話可能な SIM/eSIM を購入された方	●上記に加えて、電話回線での電話が可能となる。一般的にはデータ通信専用 SIM を使う方が多いように多いですが、こちらは安心度は高いです。

※通常、空港には公衆 WIFI があります。スマホの WIFI 画面で、それらしい名前を選ぶと、利用条件の書かれたサイトに移動します。それを受け入れると繋がります。

「WhatsApp」アプリ

相手の電話番号宛てにメッセージを送れるアプリです。通話も可能です。海外で広く利用されており、緊急連絡先として利用している学校がある以外にも、到着後は海外からのクラスメイトとのやりとりにも役立ちますので、出発前にインストールしておくとい良いでしょう。「電話番号で検索」→「相手もアプリを入れていれば相手を表示」となりますが、相手の電話番号が出てこない場合は、国番号から入力してみてください。例えば日本は「+81」、フィリピンは「+63」を最初に入力してから、相手の番号を市外局番から繋げます。日本やフィリピンは市外局番の先頭の 0 を除いて繋げます。

■海外でのローミング

日本の携帯を、そのまま海外で使えるサービスです。海外にいても日本にいるのと同じ扱いとなり、フィリピンにいても、日本からフィリピンに国際電話する要領で電話をかけます。あると心強いので、念の為、準備しておきましょう。

- ・自分のスマホでローミングが使えるか、事前に確認をしておく（主要な携帯電話会社では、だいたい使えるようです）。
- ・対象国にフィリピンや経由国が入っているか確認しておく。
- ・マイページ等でローミングの設定がオンになっているかも確認しておく。

他の方法が使えない時、または到着してすぐに SIM を使うのが難しい方も多いと思いますので、**到着日やそこから数日は必要に応じてローミングを使いましょう**。ローミングは通話料が高め、という点を気にされる方もおられますが、安心には変えられません。ローミングは心強いです

SIM の種類

SIM・eSIM には「**データ回線専用**」と「**電話回線付き**」があります。アプリでのメッセージや通話はデータ回線専用で可能ですが、一般的な電話回線を使った電話や通信、SMS は「**電話回線付き**」でないとできません。

ショートメッセージ、メッセージ、テキストメッセージ等と呼ばれる SMS は、電話番号宛てに送ります。**緊急連絡先にアプリで連絡できない場合は、電話または SMS でメッセージ送信をしてみると良いでしょう**。一般的に、SMS は電話同様、電話回線付き SIM・eSIM または、海外ローミングが必要です。

空港出迎えについて（セブ）**■出迎えの流れ**

学校からの案内に、段取りが書かれています。

同じフライトや近い時間のフライトで到着する学生が他にもいる場合、一緒に出迎えをすることがありますので、先にバンに乗って、しばらく待機いただく場合もございます。

■出迎えのものに会えない場合

マクタン空港（セブの空港）は空港としては大きくはありませんので、すぐに出迎えの担当が見つかると思いますが、万一、出迎えのドライバーが見つけれない場合は、ご案内の緊急連絡先に連絡をして、指示に従ってください。

学校からの案内に、出迎え用の緊急連絡先が案内されております。最近は LINE で緊急連絡ができるようにしている場合が増えておりますので、出発前に、登録をしていってください。

■ゲートから出るのが遅れる場合（注意）

入国審査やスーツケースのピックアップで、長い時間がかかってしまう場合があります。他の乗客が出払っているにも関わらず、皆様から出迎え担当（またはドライバー）に連絡がありませんと、ご本人が予定便で現れなかったとして、出迎えがその場で中止となり、その後の滞在先への移動にはご自身のご負担でタクシー等をご利用いただくことになります。

「入国審査に自分だけ時間がかかった」

「別室に呼ばれた」

「スーツケースが自分だけ、なかなか出てこない」

「スーツケースの紛失の手続きをすることになった」

などのケースや、このほかにも他の乗客の流れから自分だけ大きく遅れるような場合は、緊急連絡先に連絡して、状況と遅れていることをお伝えください。

■到着フライトが変更になった場合（または到着が大幅に遅れる場合）

出発直前、または経由地で便名が変更になったり、便名が変わらずとも到着予定が半日以上遅れるような場合は、あらかじめ案内された学校の緊急用の連絡先に、新しい到着予定を連絡してください。経由地で判明した場合は、そこからご連絡ください。通常は、最終目的地へ到着する便名に変更がなく、到着予定時間も数時間の遅れのみであれば、緊急の連絡先に連絡する必要はありません。ですが、学校からの案内に、そのような場合も LINE 等で連絡を入れるようにと書いてある場合は、連絡を入れてください。

航空会社は個人の情報を外部に連絡しないため、皆様の変更の情報は、皆様自身から連絡をいただかない限り、外部からはわかりません。皆様から連絡がないと、現地ではそのまま変更前の情報に基づいて出迎えをします。その結果、皆さんが到着した時には出迎えができず、滞在先への移動にはご自身のご負担でタクシーをご利用いただくことになります。また出迎えが行われたことで、出迎え費用の支払いも発生いたします。ですので、くれぐれもご注意ください。

コース初日（授業初日）

最初の月曜日がコース初日（授業初日）です。初日はレベル判定やオリエンテーション、近郊の散策等を行いますので、授業は午後または翌日からとなります。また月曜日が祝祭日の場合は翌日がコース初日となります。

ご家族への連絡

■フィリピン滞在中の、日本との連絡

通常、現地でSIMを購入します。短期であれば、日本でSIMやeSIMを用意していく方もいます。データ通信専用と電話回線付きのものがあり、安いデータ専用を買う方が多いようです。データ専用SIMで一般の電話はできませんが、LINEなどのアプリでのメッセージ送信・通話は可能です。ご家族と出発前に「やりとりはLINEを使う」等、打ち合わせておいてください。

■「到着したら、連絡する」と家族に約束している方へ

ご家族に「到着したら、とりあえず、連絡を入れる」と約束している方は、フィリピン到着後、すぐにローミングを使ってご家族に連絡をしてください。「SIMを購入してから連絡するつもりで、数日経過してしまった」「忘れていた」などというケースがありますので、そのようなことがないように、ご注意ください。

洗濯や部屋の清掃

学校により、異なりますが、よくあるのは学内ランドリールームがある学校では週1回～数回まで無料、それ以上は有料（一袋、数百円など）、学外の洗濯サービスを使う学校もあります（いずれも、日本にくらべ、かなり安いと思います）。部屋の清掃は週に1回としている学校が多いように思います。相部屋の皆様は、きれいに使うよう、心がけましょう。

各学校の規則を遵守してください

学生の皆様が、安全に過ごせるよう、また勉学に集中できるように、各学校では学業面や生活面で規定を設けております。安全を損なうような行為や他者に迷惑をかけるような行為、勉学を妨げる行為につきましては、罰則の対象となることもございますので、皆様には、各学校の規定の遵守をお願いします。例えばクラスへの遅刻、無断外泊、門限違反、寮内に部外者を招き入れる行為、度重なる教師やスタッフからの注意の無視や他の学生への迷惑行為などが挙げられます。深刻な違反行為は退学となる場合もございますので、くれぐれも規則を遵守いただきますよう、お願いいたします。

月曜日と金曜日のスケジュール

初日の月曜日（月曜日が休校日の場合は翌営業日）はオリエンテーションや、周辺の散策、現地支払い費用の徴収（火曜日でもよい学校もある）があり、クラスの内容を決めたり、教科書を決めたりします。

また、多くの学校では、1週間濃密なレッスンをおこなっているため、金曜午後は自由時間を増やす、または午後や夕方に、その週で終える学生の卒業セレモニーを行うため、レッスンが短縮されたり、一部がセレモニーに置き換わることがあります。

休校日、祝祭日について

原則として、フィリピン全土を対象とした祝祭日は休校日となります。これにはレギュラー休日と特別休日があります。そのほか地方や市で制定した祝祭日や記念日があり、それらの中にも休校日となるものがあります。原則として祝祭日は休校となり、授業の補填はございませんが、各学校の方針により、特定の祝祭日に補填レッスンや、代替えレッスン・企画を行う場合がございますので、学校からの告知には注意しましょう。また祝祭日が急遽追加されたり、変更される場合があります。それらも通常の祝祭日と同じ扱いとなります。また学校の判断により、祝祭日の休校日を別日に振り返る場合があります（例えば月曜日の祝日を金曜日に移動させる）。ですので学校の休校日に関する告知には常に注意を払うよう、お願い申し上げます。

帰国便が深夜や早朝のため早めに退出される場合の注意

■学校のスタッフに、事前に伝えましょう

例えば、帰国便が、金曜日から土曜日にかけての深夜の方や、土曜日の早朝の方は、現地にて必ずご自分で、退出の数日前までには、デポジットやエアコン代の清算の手順や、鍵の返却などを、金曜日の何時までに済ませなければならないか、確認しておいてください。

帰国時に、空港へ行く際

ご自分で、Grab カーを利用するか、または、学校に、空港センディング・サービス（有料）を依頼してください。学校では、先に他の予約が入っていると、受付できない場合がございますので、早めに学校スタッフにお申し出ください。

■帰国時の、空港までのタクシー代について

留学の終盤になってくると「現金が残りわずか」となり、空港までのタクシー代が足りなくなるかもしれません。寮のデポジットが返還される学校だと授業最終日にある程度の現金が戻ってきますが、通常はデポジットから、エアコン電気代超過分やテキスト代が相殺されて返金されますので、返還額が予想しにくいです。

空港までの移動をどうするか、早めに決めておいて、当日に現金で支払うことになる可能性がある方は、その分を分けておくと安心です。学校や学校スタッフがお金をお貸しすることはできませんので、くれぐれもご注意ください。

セブ	ご自身で「Grab カー」を利用する：これが一般的です。費用はタクシーと同じくらいか、少し安いことが多いようです。学校の空港センディングと比べると半額程度となります。Grab は滞在中に何度か利用されると思います。Grab の支払いにクレジットカードを登録しておけば、タクシー代を別途残しておく必要がありませんので安心です（カードの月額利用限度額には注意しましょう）。 お申し込みの学校に、空港センディングを依頼する：およそ 2,000-3,000 ペソの現金が必要（ほとんどのフィリピンの語学学校ではクレジットカードは使えません）。車の台数やセンディングの希望者数、新入生のお迎えも行う関係上、皆さんのセンディングをお受けできるとは限りません。ご希望の方は各校にてセンディングの申し込み手順を確認し、早めに依頼しましょう。各校ともなるべく受け付けできるよう調整していますが、不可となる場合もありますので、どうかご了承ください。不可の場合は、Grab やタクシーなどをご利用ください。
----	--

帰国時の日本の手続き

■厚生労働省「水際対策」

日本政府の方針が案内されております。帰国の前に、最新情報をご確認ください。

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000121431_00209.html



水際対策

■デジタル庁 Visit Japan Web

日本の入国手続（入国審査、税関申告）及び免税購入に必要な情報を登録することができるウェブサービスです。ご帰国の際、スムーズな日本入国・税関審査のため、Visit Japan Web への登録を推奨します。

<https://services.digital.go.jp/visit-japan-web/>

これがなくとも、入国は可能です。その場合、税関申告については、機内または到着時に紙の申告書を受け取って、記入してください。



Visit Japan Web

お金のこと

■現地で必要なお金



■生活費とエクストラ (1ヶ月コースの例)

(生活費)

食事	0 (ただし、週末の食事が含まれていないコースはその分が必要)
日用品	あまり買う必要があるものは少ない。月に数千円。
通信費	現地で SIM 購入が一番安いようで、いくつか会社はあるが、大手の Globe (グローブ)、Smart (スマート) が多い。通信容量次第で月 1500-3000 円、eSIM はそれより高いが日本でも買えて、SIM の抜き差しが不要なのがよい。多くのスマホは SIM が 2 枚できる。1 枚は sSIM だったものが、最近はデュアル eSIM で、しかも最新モデルになるほど物理スロットなしのものが出てきた。
交通費	何度も乗ると月に 5000 円を超えてきたり、長距離が多いと月に 1 万円を超えてくことも。
買い物、外食代	食事は研修費用に含まれるが、週末に外食を楽しむのにお金を使うかもしれない。カフェやショッピングモールなどでも、お金を使う機会があるが、大きなモールで高額商品を買わない限り、それほど使うこともないでしょう。

(エクストラ)

マリンスポーツや観光など。自分で地元のツアーに申し込むこともできますし、学校で紹介されている場合もあります。安いツアーだと 1 回 5000 円程度のものもありますが、日本語のツアーだと 1 回 1-3 万円と高くなります。

バギオはセブに比べて、マリンスポーツがないですが、週末には数時間かけて近隣の海沿いの街に出かけることができます。

■用意するお金と持参方法の参考例

※初日に学校に支払う費用は学校・期間によって異なります。

「アクティビティやショッピング」は個人差があります。自分には不要、または半額にする、など自分なりに減らすなどして、調整してください。

A 校	2 週間の例	(2 週間) なるべく持参した円でやりくりする
初日に学校に支払う「現地支払い費用」	6-6.5 万円と仮定 (コース毎に異なる)	■全額円で持参もあり。現地に初めに「初日に学校に支払う費用」+2~4 万円ほどをペソに換金。換金額は、初日の学校への支払い後にいくら残したいかで決めます。 ■2 週間で 2 万円程度のペソだと普通の生活なら十分足りると思いますが、足りなくなったら、持参した円から追加で換金します。4 万円程度のペソだと普通は余ると思います。ショッピングやアクティビティもそれなりに可能でしょう。もし、足りなくなったら、持参した円を両替か、デビットカードで ATM から現金を引き出します。
生活品や個人的な費用	約 1 万円	
アクティビティや高めのショッピング	2 - 3 万円	
合計	9~10.5 万円	

B 校	1 ヶ月の例	(1 ヶ月程度) なるべく持参した円でやりくりする
初日に学校に支払う「現地支払い費用」	およそ 6 万円 (コース毎に異なる)	■全額円で持参もあり。現地に初めに「初日に学校に支払う費用」+4 万円ほどをペソに換金。換金額は、初日の学校への支払い後にいくら残したいかで決めます。 ■初日の学校への現地費用を支払い後、3-4 万円分のペソが残るので、それでやりくり。普通の生活なら足りると思います。ショッピングやアクティビティもそれなりに可能でしょう。もし、足りなくなった場合は、持参した残りの円があれば、それを両替します。 ■手持ちの円がなくなった場合は、デビットカードで ATM から現金を引き出します。
生活品や個人的な費用	2 - 3 万円	
アクティビティや高めのショッピング	5 - 6 万円	
合計	13~15 万円	

■短期の場合、全額を円で持参し、現地で ATM を使わないようにするのも、よいです。ただし、万一に備えて、ATM から現金を引き出せるようにデビットカードか、またはキャッシングができるようにクレジットカードを用意するようにしてください。

■寮にセフティボックス（金庫）を用意している学校があります。ある場合、部屋の各自のロッカーやデスク周りに設置されているのが一般的です。あるかどうか気になる方は、お送りした学校の案内で確かめてください。載っていない場合はない前提でご準備ください。

■フィリピンへ 5 万ペソまたは 1 万米ドル相当を超える外貨を持ち込む場合、入国時に申告が必要になってきます。円であれば 1 万米ドル相当まで申告が不要なため、円を持参されるのがよいです（日本から海外へ現金を持ち出す場合は 100 万円相当額を超える場合、税関への申告が必要です）。

■（現地支払い費用）学校に支払う費用は、初日（または初めの数日中）に申し込んだ期間分を一括して支払います。分けて支払うものではありませんので、初めの週にそれなりの費用が必要になります。

■一部の学校で、初日の支払いにクレジットカードが使えます。該当の場合、学校の案内に記載があります。該当校の場合は「上記の初日に学校に支払う費用」を持参する費用から除いてください。

■「用意するお金と持参方法の参考例」の補足

「ATM から現金引き出し」について

現地の ATM から現金の引き出しができるデビットカードのことです。特に長期間の方はデビットカードを活用しながらのやりくりになりますので、必ずご用意ください。現地にて、現金が足りなくなっても、学校からお金を借りることはできません。クレジットカードにもキャッシングサービスがあり、ATM から現金を借りられますが、利息がつきますので、できればデビットカードがよいでしょう。

クレジットカードについて

欧米に比べると、クレジットカードが使えるお店が少ないです。大きなショッピングモール、大きなスーパー、高級なレストランやホテルなどでは使えますが、それ以外や、地元根ざしたローカル店では使えないことが多いようです。またマスターカードのカードでないと、使えるお店がさらに限られますので、そのどちらかを用意しましょう。

カードの複数枚持ちをお勧め

別会社のカードで複数枚持参をお勧めします。1 枚目でうまくいかず、別のもう一枚を試すと、うまくいったということは、よく聞きます。ただし同じ会社のカード 2 枚では意味がありませんので、別会社のものにしましょう。

学校でクレジットカードは使えるか

ほとんどの学校で、学内での支払いにクレジットカードは使えません。

フィリピンの ATM

BDO、BPI、Metro Bank、PNB など主要銀行の ATM がよく見られます。ATM には 1 日に数回まで、1 回 10,000 ペソ等の引き出し制限があります。制限はご利用のカードや ATM により異なります。コース初日のオリエンテーションで両替所や銀行を案内され、そういったところに ATM もあります。

デビットカード発行元では「ATM 引き出し手数料は無料」としていても、フィリピン側の ATM の使用料はかかるのが普通です。ATM の利用には一回 250-300 ペソ程度の手数料がかかるため（P1=¥2.8 とすると 700-840 円）、頻繁に引き出すことがないように、やりくりするとよいでしょう。

どこの ATM を使うか（場所）

ATM は故障や誤作動が、日本に比べ多いようです（カードを吸い込んだまま出てこなかったり、お金が出てこなかったり）。そういったときのために、銀行・両替所などに設置された ATM を使うのがよいでしょう（困ったら相談できそうな人が近くにいたため）。安全面でもそういった場所や高級ホテルの入り口近くにある ATM（近くにホテルの職員がいる）は安心感があります。単独で設置してある街中の ATM は避けてください。

■どこでペソに換金するか

ペソへの両替は現地にて

日本の空港より、フィリピンで両替した方がレートがよい、という意見が多いようですし、5万ペソまたは1万米ドル相当を超える外貨を持ち込む場合、入国時に申告が必要になってきますので、全てまたはほとんどを円で持参しましょう。コース初日（通常は月曜日）のオリエンテーションで両替所や銀行の案内もありますので、そこで両替えをしましょう。オリエンテーション時に周辺を散策し、両替所を見せられていたりします。

日曜日の午後にフィリピン到着の方、郊外の学校の方は、到着日は外出されない可能性が高いと思いますから、全て円で持参してもよいと思います。（到着日は外出禁止にしている学校もあります）
土曜日に到着される場合も、ATMから現金を引き出すことができます。ですが、もしペソが必要になった時にあらかじめペソを用意して行くと、便利ではありますので、そう思われる方は、日本出発時に1-2万円程度ペソに両替しておくか、マニラ空港やセブ空港で週末用に少額を両替しておくともよいかもしれません。セブ空港で両替する方は、出迎えのものを待たせることになりますので、両替に時間がかかりそうなら、出迎え用の連絡先に連絡を入れて、時間があるか相談してください。両替所は出てくるゲートにより、ゲート内だったり、外だったりします。ゲート内の両替所は、ゲートの外にでてしまうと戻れません。

コース初日に学校に直接支払う費用について

■初日に学校に支払う費用の注意

授業初日または、数日中に「現地で学校に支払う費用」をお支払いいただきます。お支払いは現金のみとなります。フィリピンの語学学校では原則としてクレジットカードは使えませんので、日本円で持参して、それを現地で両替してお支払いとなります。（ペソやドルで持参する場合、フィリピンの持ち込み制限に引っかかる可能性がありますので、原則として日本円で持参して、現地でペソに両替する、とお考えください。

必要な費用は、各学校の案内をご覧の上、ご自身で計算してください。 なお、ほとんどの学校で、教材費（テキスト代）は、現地到着後、レベル判定などを終えてから別途計算して、お支払いとなります。また為替による変動幅の可能性もございますので、実際に持参される円は学校の案内より、余裕をもって多めにご用意ください。

通常は、初日のオリエンテーションで両替所を案内しますので、そこで日本円からペソに両替し、学校にて支払いを行います。両替商に学校にきてもらう学校もあります。お支払いはコース期間分を一括してお支払いとなりますので、3ヶ月や6ヶ月のような長期の方は、初日に用意する費用が高めになります。

その他

■部屋の変更

現地に学校のスタッフに直接、ご相談ください。学校ごとに、部屋の移動・変更に関する規定を設けております。また可能かどうかは部屋の空き状況にもよります。部屋に空きがない場合は、変更ができない、またはしばらく待たなければならぬ場合もございます。可能な場合は、通常、週単位で部屋を移動することとなります。以下は宿泊費に関する一般的なルールです。これ以外に事務手数料がかかる場合がございます。

費用の高い部屋への移動	差額のお支払いが必要となります。
費用の安い部屋への移動	原則として差額の返金はございません。（ただし、学校によってはこの限りではありません）